

平成31年1月

定例教育委員会会議録

十日町市教育委員会

平成31年1月定例教育委員会会議録

- 1 開催日時、会場
平成31年1月29日（火） 13時30分～15時40分
川西庁舎 4階 第1研修室
- 2 出席
蔵品泰治教育長、吉楽隆一委員、庭野三省委員、佐藤美佐子委員、浅田公子委員
- 3 説明のため出席した者
子育て教育部長（樋口幸宏）、文化スポーツ部長（富井敏）、教育総務課長（長谷川芳子）、学校教育課長（山岸一朗）、生涯学習課長（鈴木規幸）、文化財課長（佐野誠市）、情報館長（大島満）
- 4 会議の内容
 - (1) 会議録の承認
12月定例会 署名委員：佐藤委員、浅田委員
 - (2) 会議録署名委員の指名
署名委員：浅田委員、庭野委員
 - (3) 報告・協議事項
 - ① 共催・後援等報告
・資料のとおり

(特に質疑等なく了承された)
 - ② 報告第1号 十日町市学校施設長寿命化計画の策定について
蔵品教育長
・事務局の説明を求めた。

長谷川教育総務課長
・資料に基づき説明

蔵品教育長
・この計画がなければ国庫補助事業が導入できないということがある。

吉楽委員
・学区適正化と長寿命化は総額費用などの関係が濃く、80年という長期の視点に立って連携をせざるを得ないと思うがどう考えているか。学区適正化の対象校と長寿命化の施策における対象校がかみ合わない場合もあるのではないか。

長谷川教育総務課長
・長寿命化計画は、現有校について全て調査したものになる。学区再編においても、建築年度や現在の状況を判断した中で、どちらの学校に再編した方が良いかを比較する判断材料のひとつになると考えている。

吉楽委員

- 学校は、安全な施設でなければならないので、毎年、危険箇所や経年劣化の修繕などあると思うが、長期的な視点に立ち再編を含む全体像を視野に入れた中で、考えるべきであると感じた。

庭野委員

- 統合されて閉校する学校に費用をかけても仕方がないが、長寿命化との両輪で難しい。C評価の学校2つを再編してもあまり意味がないと思う。

佐藤委員

- 学校は避難所になっている場合が多いので、閉校しても管理されるようにしてほしい。

浅田委員

- 使わなくなった学校も地域のコミュニティや災害での利用があるので、電源の確保や修繕をして欲しい。

蔵品教育長

- 閉校舎については色々な使い方をしているが、課題がある。今までは、学校施設なので教育総務課で管理してきたが、使用の実態が違ってきているものもある。行政の中でしっかり議論したい。

庭野委員

- 閉校した学校は、最終的に体育館が残る。校舎は壊して更地にして駐車場などに使用されたり、売却されて工場になるものもある。グラウンドは避難所などに使用できる。全部なくなるのは寂しいと感じる。県内にも木造校舎がそのまま残っているところもあるが、解体にも費用がかかるし、維持費もかかるので大変だと思う。

蔵品教育長

- 十日町市では大地の芸術祭でも活用されている。

庭野委員

- 使われなくなった教員住宅なども、大地の芸術祭に活用できないかと思う。

(以上の質疑のあと了承された)

③ 報告第2号 第56回全国中学校スキー大会クロスカントリー競技について

蔵品教育長

- 事務局の説明を求めた。

富井文化スポーツ部長

- 資料に基づき説明

佐藤委員

- 会場の駐車場は充分あるのか。

富井文化スポーツ部長

- ・大勢来られることが予想され、混んで駐車は難しいと思うが、クロス10、駅西に駐車して送迎する体制がある。他県の会場でも周辺はほぼ満車の状態で、駅などから送迎する体制をとっていたので、同様の体制をとっている。

(以上の質疑のあと了承された)

④ 報告第3号 平成31年度当初予算要求について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

長谷川教育総務課長

- ・資料に基づき説明

山岸学校教育課長

- ・資料に基づき説明

鈴木生涯学習課長

- ・資料に基づき説明

大島情報館長

- ・資料に基づき説明

佐野文化財課長

- ・資料に基づき説明

富井文化スポーツ部長

- ・資料に基づき説明

庭野委員

- ・寺子屋塾は廃止するのか。

山岸学校教育課長

- ・各学校でコミュニティ・スクールを推進する中で、地域の力により寺子屋塾を実施することも可能であるかと思いますが、学校教育課の事業として全ての学校で一律に実施はしないということである。

蔵品教育長

- ・寺子屋塾にかける指導者の力を経験の浅い教員の指導に振り向けたいということである。

庭野委員

- ・総予算から減らさなくてはいけないため、減らせるところを減らすということか。

蔵品教育長

- ・こういう形で市長査定が終わり、今度は議会で議論されることになる。

吉楽委員

- ・新年度の教員確保の見通しと、指導力の向上を以前から行ってきた効果はどうか。

山岸学校教育課長

- ・十日町市よりも、他市の時給が高いためにそちらへ行ってしまったことがあるため、他市町村と比べて少し時給を引き上げたので、その効果を期待している。若い教員のサポート事業は、1年目は県が実施するので関与しないが、2年目から5年目までの教員に対してベテランの教員が、教え込むというより励ます、褒めて自信を付けさせるということで実施している。優秀とされている人が、自信を失って休んだり退職したりという方もいるので、そういう方には有効であると思う。また、サポート事業を受けた教員からは、支えてもらい有り難かったという感想を聞いている。数値的にはまとめていないが、効果、成果があったと思う。

庭野委員

- ・私も退職後1年目のサポート指導嘱託主事として学校を回ったことがある。指導案を書かせて授業をさせることで、かえって負担を与えることがある。若手の教員に力を付けるにはどうしたら良いかを考えてほしい。私の場合は、授業をしてみせた。目の前で見ないと、言葉で指導されてもなかなか厳しい。嘱託指導主事の技能が問われるので難しいと思うが、指導案を書かせるだけでは間に合わないと思う。子どもの反応に対して、旬のタイミングでフォローができない教員が非常に多いと感じた。具体的な授業改善の中身について、校長が真剣に情報交換して児童生徒のやる気が出るような授業展開しないと大変だと思う。

佐藤委員

- ・給食費を値上げするということが、米飯の米をコシヒカリに戻せないか。

山岸学校教育課長

- ・年間60トンの米が必要となるため、まとまった量を安く提供してくださる方を探している。月1回という回数が変わるかも知れないし約束も出来ないが、もう一度あたっている。

浅田委員

- ・多岐にわたって、専門的に考えて予算編成されるのは大変なことだと思う。市議会ではどれくらいの時間をかけて審議するものなのか。

蔵品教育長

- ・市議会の初日に説明し、2日目の午後に質問を受ける。また、3つの常任委員会があり、予算書全てについて質問を受ける。教育委員会は総務文教常任委員会で、半日程度をかけた中で質問を受ける。その他に一般質問があり、1日5、6人の議員が3から4日で各種事業について確認する。

(以上の質疑のあと了承された)

(4) 議決事項

- ① 議案第1号 十日町市体育施設条例の改正について
蔵品教育長
 - ・議案第1号を上程し、事務局の説明を求めた。

富井文化スポーツ部長

- ・資料に基づき説明

庭野委員

- ・別表1の中に明らかに使用されていない施設があり、それらの施設をどうするかによって借地などの問題も絡み、総合的に整理されたものがほしいと思う。使われていない施設が、かなりあるのではないか。

富井文化スポーツ部長

- ・体育施設の屋外施設については、利用されていないあるいは利用が少ない施設がある。しかもそこが借地になっており、懸案事項となっているものもある。3年後の十日町市の在るべき姿を描き、どういう方向に進むかと考える中で、大きな問題の一つとして、施設の廃止に取り組んでいく。今回、条例改正する2施設については、廃止の条件がまとまったものである。その他の施設については、平成31年度中に方向を示し、翌年度もしくは時期を捉えて条例を上程し、施設を廃止することを考えている。

佐藤委員

- ・現在その施設を使用している人達に対して、使用できなくなった後のフォローはあるのか。実際に市民体育館は、高校生が部活動で使用しているが、使用できなくなった場合困るのではないか。

富井文化スポーツ部長

- ・市民体育館については、これまでに説明会を開催して調整してきた。施設があればそれにこした事はないという考えもあるが、ご理解いただきたい。

(以上の質疑のあと議決された)

② 議案第2号 十日町情報館条例の改正について

蔵品教育長

- ・議案第2号を上程し、事務局の説明を求めた。

大島情報館長

- ・資料に基づき説明

吉楽委員

- ・料金について、夜間の時間を削ってしまうということになるのか。

大島情報館長

- ・午後7時までが午後の使用料になるということである。

庭野委員

- ・反れるかもしれないが、情報館便りの内容がとても充実している。本を読む人が少なくなり、行政から相当働きかけないと短い文の情報だけの人が多くなる。じっくり本を読むことを何かの媒体で、発信することが大事だと思う。

大島情報館長

- ・市報には、毎号1/2ページに今月のテーマ図書を掲載している。あまり詳しくは説明

できないが、大人用と子供用を数冊載せている。来年度も同様に載せる予定である。

庭野委員

- ・教育委員会では、学校で家読運動を進めているが、むしろ大人に必要なと思う。

(以上の質疑のあと議決された)

(5) その他

① 学区適正化検討委員会について

教育長

- ・事務局の説明を求めた。

長谷川教育総務課長

- ・資料に基づき説明

庭野委員

- ・これを見ると生徒数、児童数、校舎の大きさで考えている。それだけで良いのかどうか。川西側の台地に中学校がなくなるのは痛々しい。吉田に素晴らしいクロスカントリーコースがあるし、吉田中や川西中がクロカンスキーを頑張っている。学校の環境というのは、校舎が置かれた環境が大事であり、特色ある学校にはならないと思う。信濃川の西側を1つのエリアと考えて中学校を1つ残すことができないか。数合わせと施設の大きさだけで決めて良いものか。それから、中条中と下条中の再編は人数が少ないので、あまり意味がないと思う。

吉楽委員

- ・保護者から話を聞くと、十日町市の教育の根源的なところで、将来にどんな子どもたちを育てのかという話に戻ってしまう。実際に教育を受けている子どもたちに、より良い教育や教育環境になるという説明を教育委員会から聞きたいという話があることを紹介する。十日町市の教育の最終は高等学校教育であり、高校を卒業した子どもたちが地域に戻ってくるかが最終的な視点である。義務教育の小学校、中学校において、教育委員会が目指す子ども像に、若手教員の指導力向上なども寄り合っていないと、保護者や地域の思いが散在してしまっていて柱がない。学区を変更する際に、皆が意見を言い出すと難しいと思う。大局に立った部分も検討委員会の中で議論いただければ良いのではないか。全体を見て色々な組み合わせを考えているが、今AIを含め時代が大きく変わって最新の教育もそうだが、元々の問題として新潟県はいじめや不登校を背負っているわけで、最終的には教員スタッフとか、それを指導するスタッフになる。自分としては、どういう子どもたちを育てるか、ということが避けられない話であると思う。そういうところを表に出していただければ有り難いと思って見せてもらった。

佐藤委員

- ・今回驚いたのは、中学生がほくほく線を利用して通学するという意見について、私としてはまだ中学生なのでスクールバスで対応してほしい。部活動などで帰宅時間がまちまちになって遅くなることもあるので、こういった通学方法が良いのか改めて考えさせられた。

浅田委員

- ・小学校の再編は、これまでの流れがあり、着地点が見えた。中学校については、先ほど

吉楽委員が話されたように、子どもたちの教育に対し、どう育てほしいかということ
を前面に出すことも大事であると感じた。

蔵品教育長

- 適正化検討委員会では、あと2回くらいの会議の中でまとめ、新年度には教育委員会の
方針を定める。方針を定めても様々な意見が出ると思うが、将来を見据えた中でコンセ
ンサスを得ながら推進したい。

庭野委員

- 統合した中学校には、主張というかイメージした中学校区が見える形にしないとイケな
い。例えば、下条と中条であれば縄文だったり、吉田と川西はクロスカントリーをアピ
ールするなど、芯になるものが必要である。それが生徒に誇りを持たせることになり、
いずれ帰ってきて地域づくりに関わるようになるのが、理想かもしれない。大地の芸術
祭などで十日町市の元気な姿を子どもたちに見せて、この地域にある魅力を発信してい
くには、人数合わせの再編ではいかなものか。

吉楽委員

- 教育というのは理想であり、理想が語れなければ、再編の理由にもならないので、理解
を得るのが難しいと思う。地域が教育に求めるものを地域から出してもらうのも良いと
思う。

蔵品教育長

- 各学校には学校運営協議会があるので、そういったことも議論してほしいと思う。

庭野委員

- 川西側から見る景色は素晴らしく、北アルプスにも負けなと思う。そういう美しい自
然を見せ、感動させる生徒を育てることが良いと思う。

吉楽委員

- 国宝の縄文土器が出土していることから、地元の中学から次のそういうものに対する研
究者まで落とし込んだ、現地として縄文クラブなど存在しても良い。但し、大人が押し
付けても難しいため、それを感じた子どもが自主的な活動に出来れば最高だと思ふ。
大人が会を作って子どもを呼び込むというものは続かない。子どもたちから生まれてこ
ないといけない。難しいことかも知れないが、そういう配慮を学校の先生が事あるごと
に地元のすごいものを紹介するなど、例えば京セラは、糸魚川の何千年も前の翡翠に穴
を開ける技術に着目し、中国の遺跡へ行き研究したものが原理となったという。現代に
も通じる発想が生まれるものがあり、様々な方法があると思う。地域の学校は、それを
伸ばしていけば自然と特徴となる。将来を感じたような、学区の在り方の話し合いがあ
っても良いと期待している。

② 最近の動きについて

- 各部長、各課長等が資料に基づき説明

③ 2月の主な行事予定について

- 資料に基づき説明

④ 次回の教育委員会の開催日時

2月定例教育委員会 2月26日（火）9時30分から開催することに決定した。

以上で、15時40分に蔵品教育長が閉会を宣言した。

以上の会議録に誤りがないことを認め、ここに署名する。

会議録署名委員

会議録署名委員

会 議 書 記